

第2日目 2022年9月4日(日)

午前の部1 9:15~10:45

テーマセッション(4)

森岡家族社会学の総括と継承

オーガナイザー・司会：池岡義孝(早稲田大学)

討論者：藤崎宏子(元お茶の水女子大学)

【企画趣旨】

本テーマセッションは、本年1月9日にご逝去された森岡清美先生を追悼するもので、森岡家族社会学を総括し、そこから何を継承すべきか検討することを目的としている。

森岡先生は、本学会の前身である家族社会学セミナーを1968年に組織され、それが発展的に解消して1991年に日本家族社会学会が誕生してからは初代会長として最初期の学会を運営され、その後も長く学会を支えていただいた。森岡先生は、小山隆のリーダーシップによって確立した戦後日本の家族社会学を、小山のあと引継いでさらに体系化して発展させ、現在の家族社会学の隆盛の基礎を築かれた。核家族論、家族周期論、ライフコース論といった、家族社会学の基礎的な理論の日本への導入と確立に主導的役割を果たされ、1960年代後半以降の家族社会学は、森岡先生の家族研究とともにあったといっても過言ではない。こうしたおもに戦後の変動する現代家族の研究とならんで、もう一つの専門領域であった宗教社会学の方では、初期に家や同族研究の手法を適用した真宗教団の社会学的研究成果で注目され、さらにそれらが晩年に華族の「家」の歴史研究として結実し、現代家族研究とならぶ森岡先生の大きな成果となっている。

3名の報告者には、森岡先生の経歴と家族社会学を中心とした業績を紹介する報告、現代家族の研究に焦点をあてた報告、家研究に焦点をあてた報告をそれぞれしていただく。それらに対して討論者からコメントをいただき、参加者のみなさんを交えた議論ができればと考えている。このようにして、本テーマセッションは森岡家族社会学の成果を検証し、われわれがそこから何を学び継承するか、参加者のみなさんとともに検討してそれを深く追究していくものとした。